

「災害情報データベース」の構築について

財団法人消防科学総合センター

研究員 黒田 洋 司

はじめに

当センターでは、過去の災害に関する情報を簡便に把握するための方策の一つとして、毎年各都道府県から消防庁へ報告される「災害年報」（個々の災害についての被害や対策状況に関する記録）を中心とした「災害情報データベース」の構築を試みた。本稿は、現段階で構築されているデータベースの概要である。

なお、データベースの構築に当たっては、学識経験者、自治省消防庁職員、地方公共団体消防防災行政関係職員で構成される「災害情報のデータベース化に関する調査研究委員会」（委員長吉井博明文教大学情報学部教授）を設置し、検討を行った。

1 データベースの全体構成

「災害情報データベース」は、「災害年報データベース」、「大規模災害データベース」、

「文献データベース」の3つのデータベースから構成されている（図1）。

「災害年報データベース」は、各都道府県における昭和55年以降の災害年報掲載データ約5,700件を格納したもので、これらのデータの検索及び集計が可能となっている。

「大規模災害データベース」は、昭和期以降の主要な災害（約380件）に関する基礎的データを格納したもので、災害種別等による検索が可能となっている。

「文献データベース」は、当センター保有図書約12,000件の著者（発行機関）名、書名、発行年等のデータを格納したもので、著者（発行機関）名、書名に含まれる語句等による検索が可能となっている。

なお、本データベースは、広く一般に利用可能なものとするため、パーソナルコンピュータで運用されるようになっている。

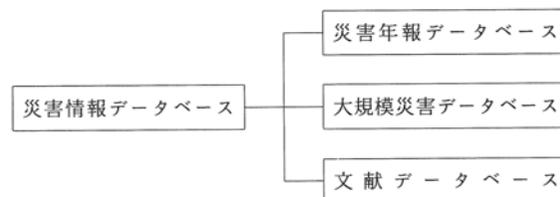


図1 災害情報データベースの全体構成

2 災害年報データベースの機能

「災害年報データベース」の機能について更に詳しく説明する。

(1) 検索

図2をもとに、検索機能の流れを説明する。

①Aのメインメニューで「◆データ検索」を指定する。

②検索の条件を指定する画面がBのとおり示される。

③ここで、例えば「被害総額 10,000 千円以上」の災害を検索しようとする、Bの中の「被害総額」の欄に「10,000～千円」と入力し、〈ROLLUP〉キーで検索条件の指定を終了する。(検索の期間、地域、災害の種類等も同時に指定することもできる。)

④しばらくすると、指定条件を満たす災害が検索され、Cの形で1件分の災害年報データが表示される。(〈HOMECLR〉キーを押すと、Dのように該当災害が一覧表示される。)

⑤Cの画面で〈HELP〉キーを押すと、検索されたデータの処理メニューがEのように表示され、以下の作業を指定できる。

- ・全印刷:検索された災害年報データを全て印刷する。
- ・1件印刷:検索された災害年報データベースの内、現在画面に表示されているもののみを印刷する。
- ・絞込検索:検索された災害年報データを、更に検索条件を追加し絞り込む。
- ・検索やり直し:検索された災害年報データを廃棄し、最初から検索をやり直す。
- ・集計:検索された災害年報データを一定

の様式で集計する((2)参照)。

- ・検索終了:検索を終了してAのメインメニューに戻る。

(2) 集計

図3をもとに、集計機能の流れを説明する。

①Aのメインメニューで「◆集計別印刷」を指定する。

②集計の期間を指定する画面がBのとおり示される。

③Bで例えば「H1年1月～H1年12月」と指定すると、集計様式(6種類)を選択する画面がCのように表示される。

なお(1)で検索されたデータを集計するときは、(1)の⑤で「集計」を指定すると、Cの集計様式を選択する画面が表示される。

④集計する様式を指定すると、しばらくして指定した様式の集計結果が印刷され、Cの画面に戻る。(指定する様式のいくつかでは、サブメニューが示され、集計内容をさらに細かく指定した後実行される。)

3 今後の展開

災害に関する社会的な理解の深まりのために、将来的には、防災に携わる関係機関や大学等の研究者において、本データベースの多角的な活用がなされることが望まれる。そのため、今後は引き続き、データベースの格納データ及び機能の充実等に関する検討を深め、より利用価値のあるデータベースとしていくことが必要と考えている。

なお、関係機関等において、本データベースを用いた検索・集計を希望される場合は、原則として照会に応じることとしているので是非ご活用いただきたい。

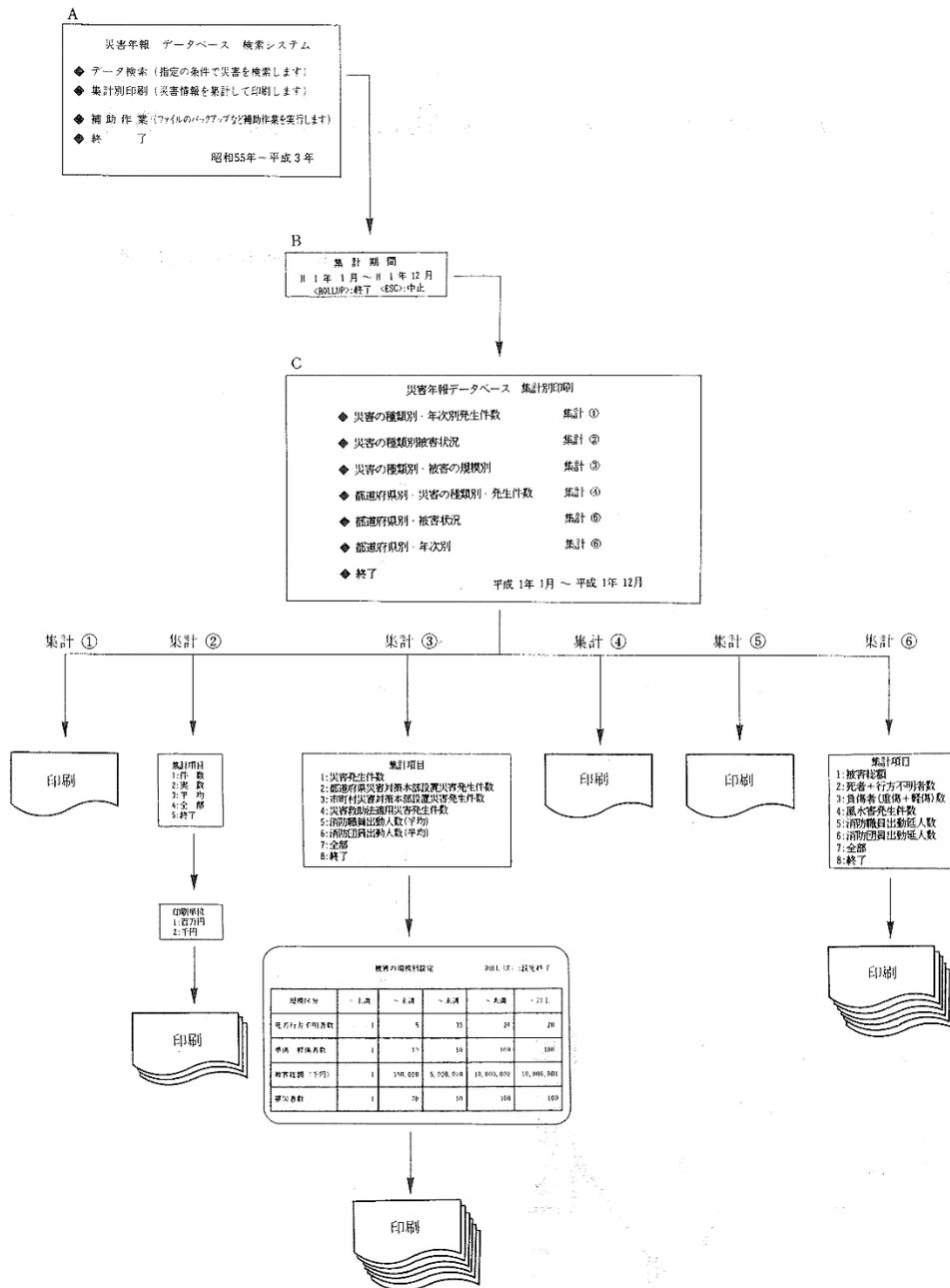


図3 災害年報データベース集計機能の流れ